

令和5年度 環境衛生試験所年報

長野市保健所環境衛生試験所

は じ め に

平素は、長野市保健所環境衛生試験所の業務に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、令和4年の地域保健法、感染症法改正により、地方衛生研究所の機能強化が求められる中、感染症発生動向調査のため、新たに導入した次世代シーケンサーによる全ゲノム解析を開始しました。

また、長野市感染症予防計画、長野市保健所健康危機対処計画では、長野市保健所の一組織として、次の感染症の危機に備えるため、長野県、民間検査機関などと協力体制を構築しました。

環境分野では、水質や大気に関する各種測定機器の適切な維持管理及び更新により精度の高い検査体制の維持を図るほか、環境部局の施策に合わせた効率的な検査体制の見直しや新規監視項目への対応検討も進めております。

食品分野では、残留農薬検査の測定対象品目・項目の拡大を図っているほか、市内でも散発する有毒植物等の自然毒食中毒について、検査可能項目の順次拡大を図っております。

ここに、当所が令和5年度に実施した事業の状況を取りまとめましたので、御高覧いただき、御指導、御助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年1月

長野市保健所 環境衛生試験所長
小林 徹也

目 次

I 概要

1	沿革	1
2	施設概要	2
3	組織及び業務分担	3
4	事務分掌	4
5	職員配置	4
6	主要備品	5

II 試験検査

1	環境検査	6
2	臨床検査	10
3	食品検査	14

III その他

1	精度管理調査実施状況	16
---	------------	----

I 概要

1 沿革

平成 11 年 4 月の長野市の中核市移行に伴い発足した長野市保健所衛生検査課が、それまで大気汚染防止法・水質汚濁防止法に係る環境検査を実施していた環境部環境公害課公害検査センターの業務を統合し、本市の環境及び保健衛生に関する検査部門として業務を開始した。

平成 18 年には、名称を長野市保健所環境衛生試験所に変更し、環境検査係・臨床検査係・食品検査係の 3 係に改めた。その後平成 27 年に保健所全体の組織変更に伴い、係制から担当制に移行した。

その間、ウイルス等の遺伝子検査や食品中の残留農薬検査等の検査体制を強化するとともに、地方衛生研究所全国協議会及び市立衛生研究所・衛生試験所連絡協議会に加入し、専門情報の収集や他の自治体等との情報共有にも努めている。

平成11年	長野市の中核市移行に伴い長野市保健所発足 衛生検査課 理化学係・病理細菌係の 2 係制とする。
平成12年	食品衛生検査業務管理要領を策定し、食品検査GLPに対応
平成15年	食品残留農薬検査を開始
平成16年	市立衛生研究所・衛生試験所連絡協議会に加入 リアルタイム定量PCRシステムを導入
平成18年	長野市保健所環境衛生試験所に改称 環境検査係・臨床検査係・食品検査係の 3 係に体制を変更
平成19年	食品残留農薬検査用にLC/MS/MS、GC/MS/MSを導入 DNAシーケンサーを導入
平成20年	P3施設を設置
平成24年	地方衛生研究所全国協議会に加入 食品の放射性物質のスクリーニング検査を開始
平成27年	3 係制から 3 担当制に移行
平成28年	病原体等検査業務管理要領を策定し改正感染症法に対応
令和 4 年	全国衛生化学技術協議会に加入
令和 5 年	食品の放射性物質のスクリーニング検査を終了 次世代シーケンサーを導入

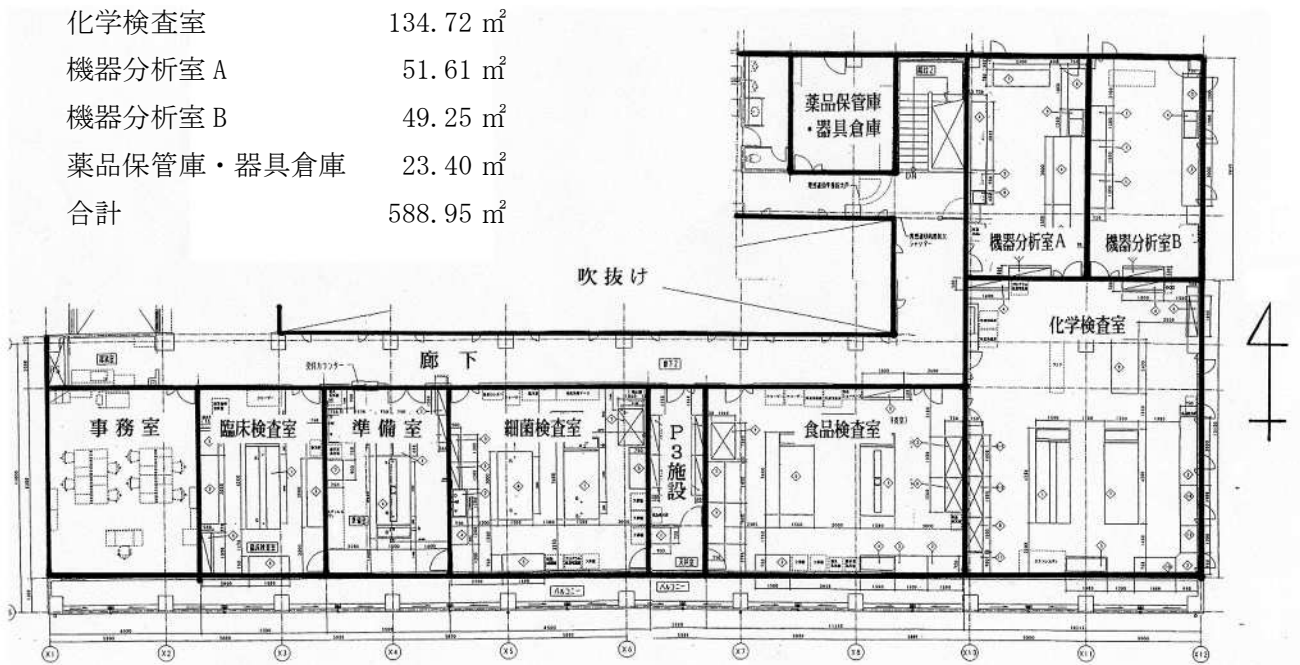
2 施設概要

位 置	長野県長野市若里六丁目6番1号		
構 造	鉄筋コンクリート（一部鉄筋鉄骨コンクリート、鉄骨）造		
	地上3階建		
床面積	1階	1,457.75 m ²	
	2階	1,125.30 m ²	
	3階	986.38 m ²	
	塔屋	37.93 m ²	
	合計	3,607.36 m ²	
竣 工	平成11年3月		

試験室等面積

試験所事務室	53.95 m ²
臨床検査室	45.65 m ²
準備室	45.65 m ²
細菌検査室	70.55 m ²
P3施設	20.75 m ²
食品検査室	93.42 m ²
化学検査室	134.72 m ²
機器分析室A	51.61 m ²
機器分析室B	49.25 m ²
薬品保管庫・器具倉庫	23.40 m ²
合計	588.95 m ²

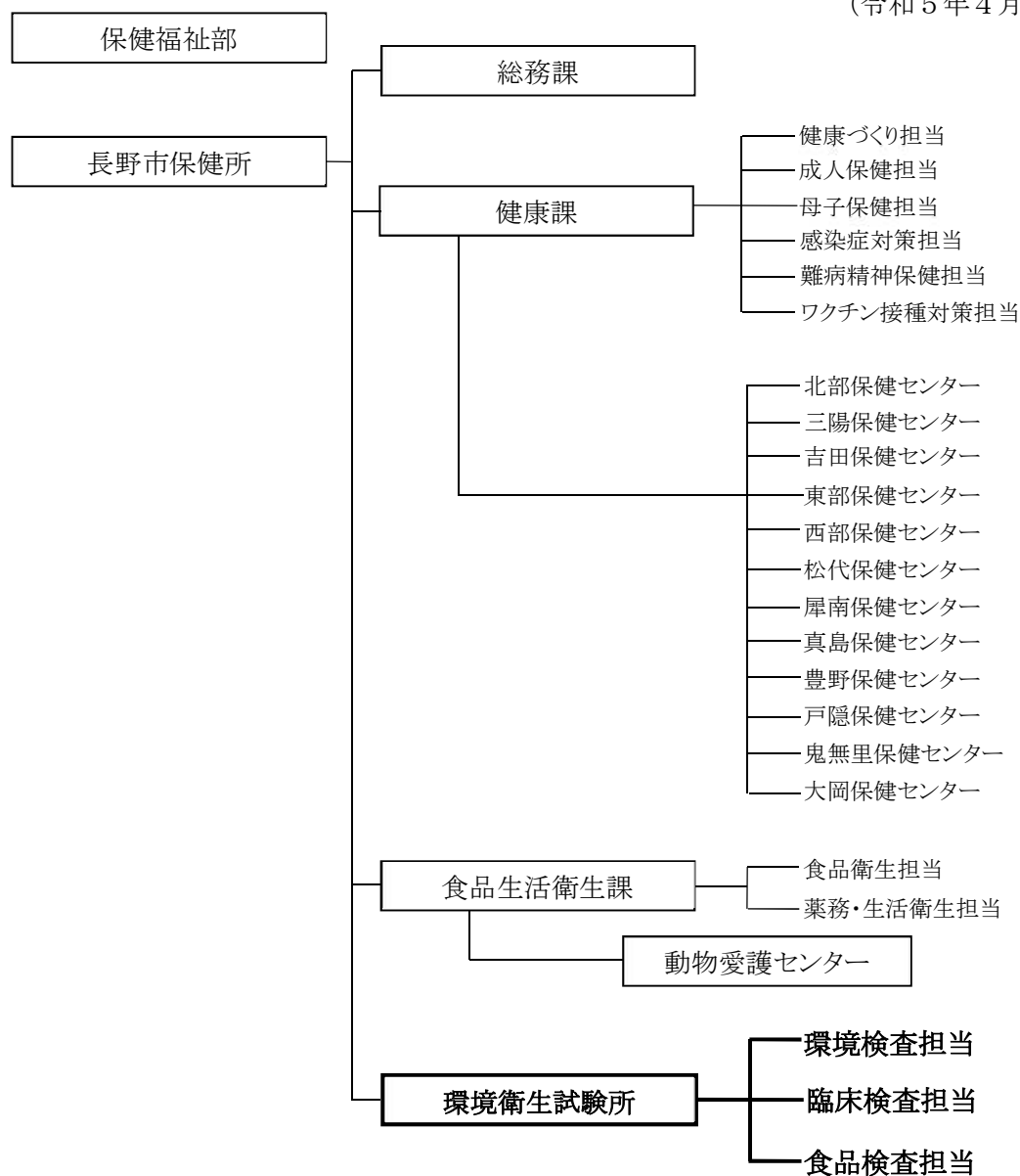
施設（3階）平面図



3 組織及び業務分担

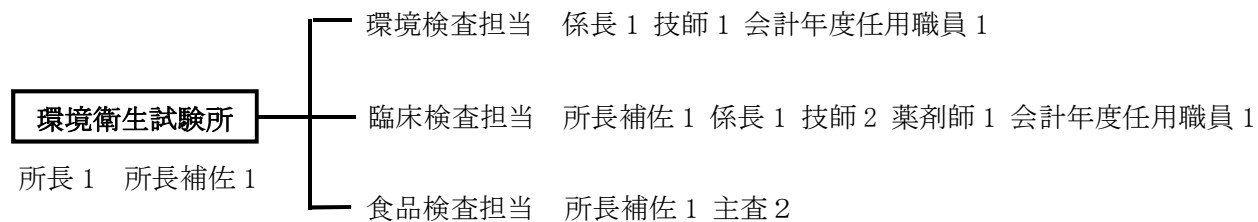
(1) 長野市保健所

(令和5年4月1日現在)



(2) 環境衛生試験所

(令和5年4月1日現在)



4 事務分掌

以下に掲げる検査及び検査に係る調査研究に関すること。

(1) 環境検査担当

- ア 大気及び水質の検査に関すること。
- イ 廃棄物及び土壌の検査に関すること。
- ウ その他環境検査に関すること。

(2) 臨床検査担当

- ア 微生物学的検査に関すること。
- イ 血清学的検査に関すること。
- ウ その他臨床検査に関すること。

(3) 食品検査担当

- ア 食品添加物、器具及び容器包装及び食品の残留農薬の検査に関すること。
- イ 家庭用品、遊泳用プールの検査に関すること。
- ウ その他食品検査に関すること。

5 職員配置

(令和5年4月1日現在)

区分	化学	薬剤師	臨床検査技師	事務	会計年度任用職員	計
所長		1				1
所長補佐	1		1	1		3
環境検査担当	2				1	3
臨床検査担当		1	3		1	5
食品検査担当	1	1				2
計	4	3	4	1	2	14

6 主要備品

機 器 名	メーカー 型式	設置場所	取得年度
Loopampリアルタイム濁度測定装置	栄研化学 RT-160C	臨床検査室	H16
7500リアルタイムPCRシステム	ライフテクノロジーズジャパン 7500-1	臨床検査室	H25
遺伝子増幅装置	アボット・ジャパン Abbott m2000rtTM アナライザー	臨床検査室	H26
QuantStudio5リアルタイムPCRシステム	サーモフィッシャーサイエンティフィック製 QS5-96F	臨床検査室	R2
顕微鏡(蛍光顕微鏡)	オリンパス BX60-34-FL-BD1	細菌検査室	H10
顕微鏡テレビ装置	オリンパス HCC-3900-1	細菌検査室	H10
冷却遠心分離機	クボタ 1920	細菌検査室	H10
パルスフィールド電気泳動システム	バイオラッド ジーンパスシステムB(フィンガープリンティングⅡDSTソフトウェア付)	細菌検査室	H15
DNAシーケンサー SeqStudio	サーモフィッシャーサイエンティフィック SEQ-L Laptopコンピュータ付システム	細菌検査室	R1
QIAcube Connect System	キアゲン製 9002844C 装置本体、タブレット・WiFi機器	細菌検査室	R2
バイオハザード対策用クラスⅡキャビネット	日立産機システム製 型式:SCV-1309ECⅡA2	細菌検査室	R2
CO2インキュベーター	三洋 MOC-34AIC	P3施設	H12
超高速遠心分離機	日立 CP70MX(ロータP50AT2付)	P3施設	H14
バイオハザード対応遠心分離機	久保田 5910	P3施設	H15
安全キャビネット	日立アプライアンス SCV-1307ECⅡAB3	P3施設	H20
器具洗浄機(ジェット式)	三洋 MJW-8020	食品検査室	H11
マイクロプレートリーダー	コロナ MTP-500	食品検査室	H13
紫外可視分光光度計 一式	日本分光 V-630ST 他付属品	食品検査室	H18
卓上遠心機	久保田商事(株)製 S700T	食品検査室	R3
マイクロウェーブ試料分解装置	ユニフレックス MODEL7195セット	化学検査室	H11
シアン蒸留装置	宮本理研 STC-8D	化学検査室	H22
純水製造装置	メルク Milli-Q Integral MT 5 環境分析タイプ	化学検査室	H27
水分析用全自動固相抽出装置※	ジーエルサイエンス アクアトレース ASPE899	化学検査室	H27
紫外可視分光光度計 一式	日本分光 V-730iRM 他付属品	化学検査室	R2
バージ&トラップ濃縮導入装置付ガスクロマトグラフ質量分析計	島津 QP-2010 PLUS 一式	機器分析室A	H21
ヨウ化ナトリウム NaI(Tl)シンチレーション検出器※※	スウェーデン王国 ガンマデータ・インストゥルメント GDM-12	機器分析室A	H24
液体クロマトグラフ質量分析計※	ABサイエックス Triple Quad 5500+	機器分析室A	R3
ICP質量分析計※	アジレント 7900	機器分析室A	H28
ガスクロマトグラフ	島津 GC-17A Ver. 3/AOC-20i/AOC20s	機器分析室B	H11
高速液体クロマトグラフ	島津 LC-10ADvp	機器分析室B	H11
ガスクロマトグラフ	島津 GC-2010 PLUS 一式	機器分析室B	H23
高速液体クロマトグラフ	島津 NEXREA 一式	機器分析室B	H23
イオンクロマトグラフ※	ダイオネクス HPIC 一式	機器分析室B	R03
水銀分析装置	日本インスツルメンツ RA-3320	機器分析室B	H25
ガスクロマトグラフ質量分析計※	アジレント 8890/7010C	機器分析室B	R5
オキシダント動の校正装置	ダイレック 1150, 1400, 1410	器具倉庫	H8
水分活性測定装置	日本シイベルヘグナー TH-200(専用プリンタ付)	器具倉庫	H11
赤外線式ガス濃度測定装置	堀場 PG-250	器具倉庫	H11
排ガス中ダスト濃度測定装置	濁川理化工業 NG2-4DS	器具倉庫	H11

※: リース品 ※※: 国貨与備品

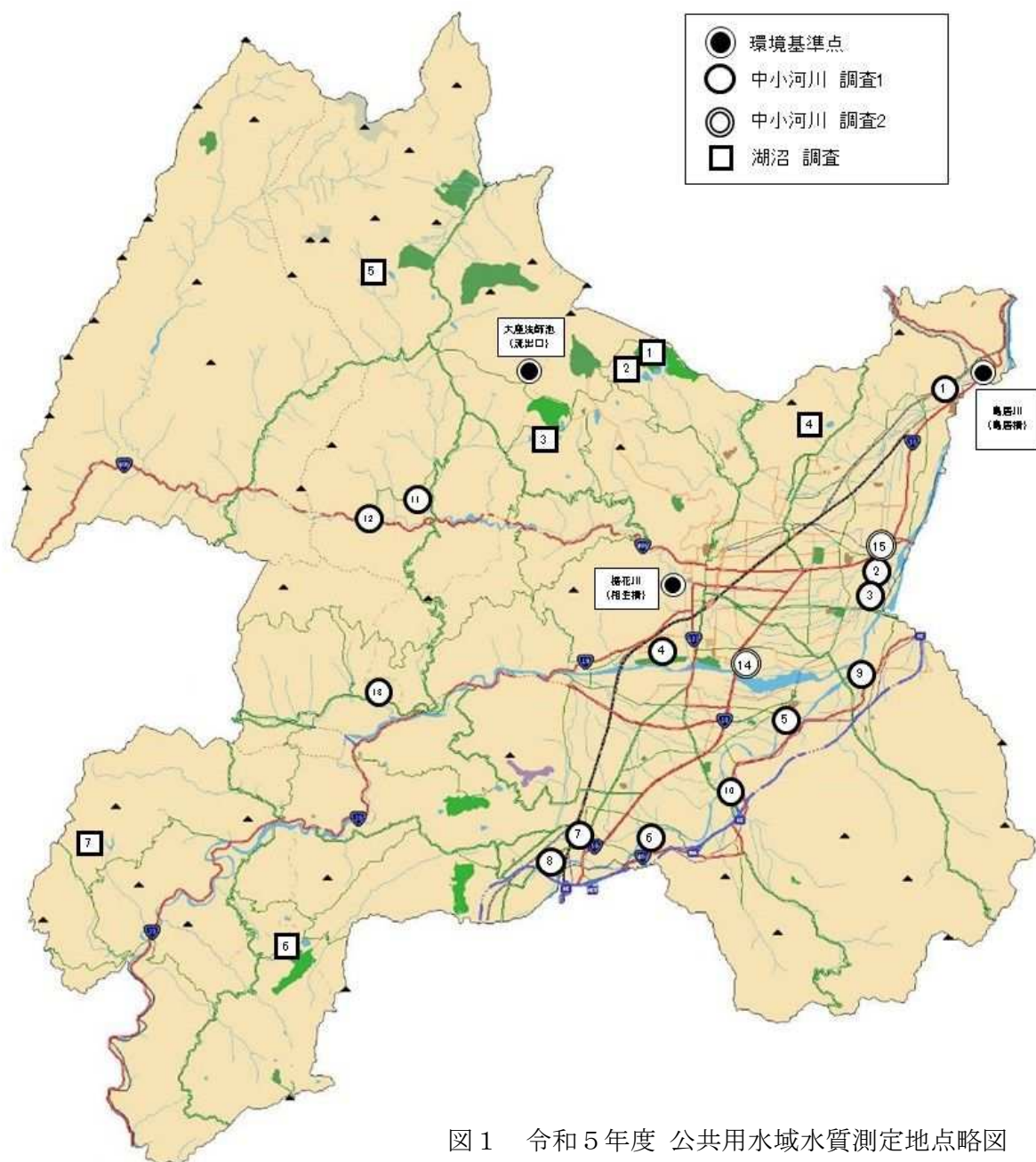
Ⅱ 試験検査

1 環境検査

(1) 環境監視関係検査

ア 環境基準点等水質検査

市内の主要な公共水域の水質状況を把握するため、令和5年度は環境基準点3地点のうち2地点（鳥居川鳥居橋、裾花川相生橋）で年12回、1地点（大座法師池流出部）で年9回、関連調査として裾花川参宮橋で年12回、大座法師池湖心で年3回、大座法師池流入点を年6回、水質検査を実施した。



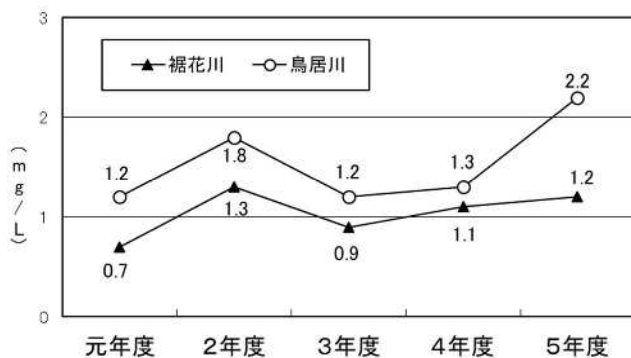


図2 BOD 値の推移

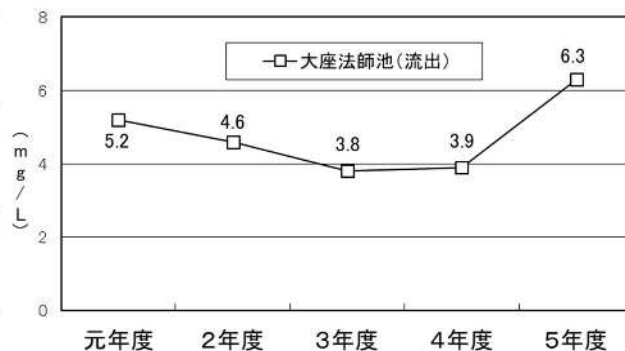


図3 COD 値の推移

鳥居川の生物化学的酸素要求量（BOD）は上昇傾向で、令和5年度は環境基準（2.0mg/L 以下）を超過した。堀花川はほぼ横ばいで推移している。大座法師池（流出）の化学的酸素要求量（COD）は環境基準（3.0mg/L 以下）を超過している。（なお、令和元年度10月から3月、令和3年度11月から3月、令和4年度12月から3月及び令和5年度の10月から3月の大座法師池のCODについては、欠測であったことから測定値は参考値となっている。）

イ 中小河川水質検査

市内の中小河川の水質状況を把握するため、令和5年度は市内主要河川15か所で年4回水質検査を実施した。その結果、「砒（ひ）素」が1か所、「ほう素」が1か所で環境基準を超過した。

ウ 湖沼等水質検査

市内の湖沼、農業用池の水質状況を把握するため、令和5年度は主要湖沼7か所で年2回水質検査を実施した。その結果、例年と同程度の測定値であった。

エ 地下水水質検査

市内の地下水の水質状況を把握するため、令和5年度は概況調査として8地点で年2回、また過去に汚染（揮発性有機溶剤等）が確認された井戸の継続的な調査監視として8地点で年1回、水質検査を実施した。その結果「砒（ひ）素」が1か所、「テトラクロロエチレン」が2か所で環境基準を超過した。

オ その他水質検査

上記以外の公共水域や地下水への影響を把握するため、令和5年度は過去に土壌と地下水に揮発性有機塩素が検出された周辺の地下水4地点で年1回、水質検査を実施した。その結果、「クロロエチレン」が2か所で環境基準を超過した。

カ 大気常時監視測定

市内の大気汚染状況を監視するため、大気汚染常時監視測定局4局（自動車排出ガス1局、一般環境大気3局）を設置し、大気中の汚染物質等を連続測定している。また、汚染状況を迅

速に把握するため、オンラインシステムを構築し、環境衛生試験所で測定データを収集し、環境部環境保全温暖化対策課とデータ共有している。また、広域的な汚染状況を把握するため、長野県（環境保全研究所）ともオンライン化し、県を通じて国にもデータが提供される。

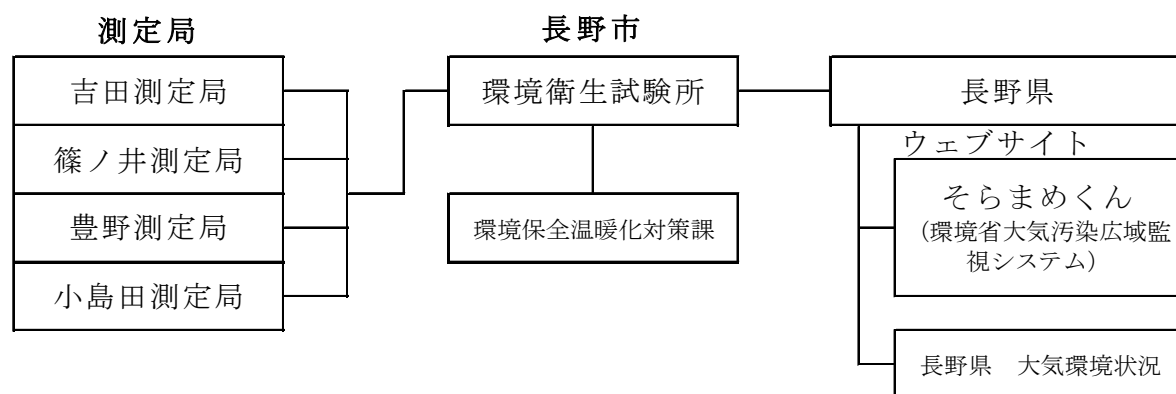
令和5年度は全常時監視項目のうち、光化学オキシダントについて環境基準を超過したが、注意報等の発令や健康被害の発生するレベルには至らなかった。

大気汚染常時監視項目及び令和5年度環境基準達成状況

局名	種別	二酸化硫黄	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	一酸化炭素	一酸化窒素	二酸化窒素	光化学オキシダント	風向風速
吉田	一般環境	◎	◎	◎	-	○	◎	×	○
篠ノ井	一般環境	◎	◎	◎	-	○	◎	×	○
豊野	一般環境	-	-	◎	-	-	-	×	○
小島田	自動車排ガス	-	◎	◎	◎	○	◎	-	○

◎は環境基準達成、×は未達成、○は環境基準の設定なし、-の項目は機器設置なし

図4 大気常時監視測定データ伝送系統図（令和6年3月31日現在）



(2) 排出源監視関係検査

ア 工場、事業場排水検査

水質汚濁防止法に基づく特定施設を有する事業場排水の状況を確認するため、令和5年度は50事業場について、有害物質及びその他の項目について水質検査を実施した。その結果、「pH」、「BOD」、「SS」、「大腸菌群数」、「砒（ひ）素及びその化合物」の5項目が、延べ7事業所で排水基準を超過した。

イ 廃棄物処分場関連検査

廃棄物処理施設の影響を確認するため、令和5年度は廃棄物処理施設7施設について、周辺の水質検査を行った。その結果、「全マンガン」が1か所で環境基準を超過した。

(3) その他の検査

ア 水質事故等の環境関連検査

関係各課からの依頼により、令和5年度は事故、苦情等に伴う11事例（内訳：水質9例、その他2例）計26検体の検査を実施した。

上記（１）から（３）までの各環境検査の内容別検体数と実施項目数の経過は下表のとおりである。

環境検査実施数

区分 \ 年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
(1) 環境監視関係	環境基準点等水質検査	54	1,009	71	1,158	59	960	60	934	66	1,039
	中小河川水質検査	60	951	60	1,057	45	450	59	900	60	1,065
	湖沼等水質検査	14	203	13	223	13	229	13	194	14	224
	地下水水質検査	41	1,750	41	1,791	41	1,846	20	771	25	1,001
	その他水質検査	4	80	9	141	4	68	9	152	4	68
(2) 排出源監視関係	工場・事業場排水検査	80	1,157	77	1,045	71	949	85	968	85	960
	廃棄物処分場関連検査	28	1,300	25	1,102	25	1,099	25	672	33	721
(3) その他	水質事故等の環境関連検査	90	809	24	384	24	384	21	391	26	580
合 計		371	7,259	320	6,901	282	5,985	292	4,982	313	5,658

2 臨床検査

(1) 特定感染症の健康相談に関する検査

特定感染症（エイズ・性感染症）の相談・検査は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより夜間相談なども復活し、実施件数は増加した。

令和5年度の陽性者は、HIV 0人、梅毒（RPR法3人、TPHA法8人）、クラミジア（クラミジア抗原18人、淋菌抗原2人）だった。

区分 検査項目		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
HIV抗体 (HIV-1, 2)	スクリーニング*(PA法)	429	1	162	1	71	0	160	0	306	0
	" (IC法)		429		162		71		160		306
	確認検査(WB法)		0								
	確認検査(外部委託)				1		0		0		0
梅毒	脂質抗原使用検査 (RPR法)	416	416	158	158	70	70	157	157	306	306
	抗TP抗体・TPHA		416		158		70		157		306
淋菌	抗原検査(PCR法)	384	384	151	151	70	70	153	153	292	292
	抗原検査(PCR法)		384		151		70		153		292
クラミジア	抗体(IgA,IgG)検査 (ELISA法)	413	826	158	316	廃止		廃止		廃止	
計		1,642	2,856	629	1,098	211	351	470	780	904	1,502

(2) 結核予防に関する検査

結核感染の進展防止等のため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」）に基づき、結核患者との接触者の健診を実施した。

令和5年度の陽性者は、3人だった。

区分 検査項目		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
血液	インターフェロン γ 測定	11	11	27	27	18	18	27	27	36	36

(3) 保菌検査

水道法、食品衛生法及び感染症法に基づき、集団給食従事者、食品関係従事者、飲食関係従事者等の便検査を実施した。

令和5年度は、赤痢・サルモネラ・腸管出血性大腸菌 O157 等の検出が無かった。

区分 検査項目		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
便	赤痢・サルモネラ・ 病原大腸菌O157等	1,274	3,822	1,346	4,038	1,334	4,002	1,257	3,771	948	2,844
	病原大腸菌抗原同定まで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大腸菌ペロ毒素検査まで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1,274	3,822	1,346	4,038	1,334	4,002	1,257	3,771	948	2,844

(4) 感染症の予防に関する検査

感染症法に基づき、感染症の患者が発生した際に、その感染症の蔓延を防止するため、患者、接触者、海外渡航者等の検査を実施した。

区分 検体		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
糞便		50	50	44	44	146	200	64	273	29	29
食品・水		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
拭き取り・菌株・喀痰など		21	56	20	95	24	74	16	71	24	82
計		71	106	64	139	170	274	80	344	53	111
発生事例数		31		24		26		16		28	
病原体検出検体数		23		11		31		16		10	
病原体検出検体数 内訳		腸管出血性大腸菌 12 (O111 1) (O121 2) (O157 9) 菌株は感染研にMLVA解 析を依頼 レジオネラ 1 MRSA 1		腸管出血性大腸菌 9 (O26 4) (O103 2) (O157 1) (O181 1) (O186 1) 菌株は感染研にMLVA解 析を依頼 CRE 2 (NDM型 <i>E.coli</i>)		腸管出血性大腸菌 16 (O26 15) (O157 1) 菌株は感染研にMLVA解 析を依頼 MRSA 7 (POT法一致 3株、4株) ノロウイルス 8 (GII 8)		腸管出血性大腸菌 5 (O9 1) (O26 2) (O157 2) 菌株は感染研にMLVA解 析を依頼 MRSA 2 (POT法2株 1バンド違 い) ノロウイルス 9 (GII 9)		腸管出血性大腸菌 9 (O26 3) (O103 1) (O157 4) (OUT 1) MLVA解析は自施設で実 施し、菌株を感染研へ送 付した VER 1 (VanB)	

(5) 感染症発生動向調査に関するウイルスの検査

感染症発生動向調査のため、検体検査を実施した。新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより検査数は減少した。令和5年度、次世代シーケンサーを導入し新型コロナウイルスゲノム解析の体制整備を年度末に終え、わずか3検体であるが自施設において検査を実施した。

季節性インフルエンザウイルスの流行が9月以降見られ、検査定点及び集団発生などに伴う検体搬入が131件あり5年間で最大の検査数となった。

その他にエムポックス、E型肝炎、SFTSなどの検査を実施した。

区分 事業名	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
感染症発生動向調査に関する検査 (インフルエンザ検査定点)	55	365	0	0	0	0	13	78	116	709
インフルエンザ重症患者及び集団かぜ に関する検査 (検査定点以外)	6	39	0	0	0	0	9	54	15	91
インフルエンザ薬剤耐性遺伝子検査 (AH1pdm09のみ)	38	38	0	0	0	0	0	0	14	14
感染症発生(疑い含む)に伴う疫学調査 (麻疹ウイルスPCR)	41	41	3	3	0	0	0	0	3	3
(風疹ウイルスPCR)	41	41	3	3	0	0	0	0	3	3
(麻疹・風疹血清抗体価検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(SFTSウイルスPCR)	0	0	0	0	2	2	0	0	1	1
(デングウイルスNS1抗原検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(デングウイルス、チクングニアウイルス、 ジカウイルスPCR)	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0
(A型肝炎ウイルスPCR)	4	4	2	2	0	0	0	0	0	0
(E型肝炎ウイルスPCR)									4	4
(エムボックスウイルスPCR)									1	2
(新型コロナウイルスウイルス)	170	170	4,405	4,405	4,030	4,030	1,459	1,459	313	313
(" 変異株) ※当所実施分			141	141	938	1,396	405	405	2	2
(" ゲノム解析) ※当所実施分									3	3
(" ゲノム解析) ※当所委託分					192	192	280	280	175	175
計	357	710	4,554	4,554	5,162	5,620	2,166	2,276	650	1,320
検出ウイルス数 ()内は集団かぜ＋重症者由来再掲	A香港型 7(0) B型山形系統 1(0) AH1pdm09 38(4) B型ビクトリア系統 11 麻しんウイルス 3 新型コロナウイルス 1		A型肝炎 1 (1A) 新型コロナウイルス 410		新型コロナウイルス 1,394		新型コロナウイルス 430 A香港型 17(4) AH1pdm09 3(3)		新型コロナウイルス 267 A香港型 88(7) AH1pdm09 19(1) B型ビクトリア系統 16 E型肝炎 1(3a)	

(6) 食中毒等に関する検査

食中毒等が疑われる事案が発生した際に、病因物質（微生物）、原因食品、感染経路等を特定するために、食品、患者・調理従事者便等の病原微生物検査を実施した。

令和5年度は19事例と大幅に増え、カンピロバクター、ノロウイルスが検出された。

区分 検体	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
糞便	67	871	4	80	49	884	50	992	116	2,310
食品・水	0	0	7	140	7	140	29	472	45	886
ふき取り	5	100	3	60	8	160	0	0	12	246
菌 株	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
計	72	971	14	280	64	1,184	79	1,464	175	3,446
発生事例数	10		1		5		7		19	
病原体検出検体数	33		0		13		17		68	
病原体検出 検体数内訳	ノロウイルス 24 (GⅡ:24) 黄色ブドウ球菌 3 カンピロバクター 9 (ジエシユニ 9)				カンピロバクター 3 (ジエシユニ 3) ウェルシュ菌 8 ノロウイルス 2 (GⅡ:2)		カンピロバクター 2 (ジエシユニ 2) ノロウイルス 15 (GⅡ:15)		カンピロバクター 14 (ジエシユニ 14) ノロウイルス 53 (GⅠ:8) (GⅡ:45) (うちGⅠ・GⅡとも に検出 4) セレウス(毒素+) 1	

(7) 原爆被爆者健康診断に関する検査

「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」に基づく原爆被爆者健康手帳所持者及び被爆者健康診断受診者証所持者を対象とする一般健康診断について、令和5年度も受診希望者はいなかった。

区分 検査項目		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数	検査 検体数	検査 項目数
尿	定性化学 (蛋白・糖・潜血・ウロビリノーゲン)	2	8	1	4	未実施	0	受診者 なし	0	受診者 なし	0

3 食品検査

(1) 加工食品等の食品添加物検査及び成分規格検査

市内に流通する食品の安全確保を図るため、食品衛生法に基づき、食品添加物使用基準や食品成分規格の検査を実施した。その状況は下表のとおりで、令和5年度は全384検体（延べ数）に不適品はなかった。

検査項目別食品等検査実施状況

年度			元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
検体数			検体数	不適検体数	検体数	不適検体数	検体数	不適検体数	検体数	不適検体数	検体数	不適検体数
			415	0	321	1	305	0	356	0	384	0
検査項目			検査項目数	不適項目数	検査項目数	不適項目数	検査項目数	不適項目数	検査項目数	不適項目数	検査項目数	不適項目数
添加物	甘味料	サッカリンナトリウム	6		4		7		7		7	
		アスパルテーム	6		4		7		7		7	
		アセスルファムカリウム	6		4		7		7		7	
	保存料	ソルビン酸	56		42		41		50		55	
		デヒドロ酢酸	56		42		41		50		55	
		安息香酸	56		42		41		50		55	
		パラオキシ安息香酸エステル類	56		42		41		50		55	
		プロピオン酸	2		2		0		2		4	
		二酸化硫黄	0		0		0		0		0	
	着色料	指定着色料(12種)	672		504	1	492		600		660	
	酸化防止剤	アスコルビン酸	0		0		0		0		0	
		BHA、BHT	8		6		0		4		6	
		没食子酸プロピル	4		3		0		2		3	
		二酸化硫黄	5		3		3		3		3	
	発色剤	亜硝酸ナトリウム	12		9		6		12		8	
	漂白剤	二酸化硫黄	36		30		29		32		41	
	防ばい剤	オルトフェニルフェノール	4		4		4		4		2	
		チアベンダゾール	4		4		4		4		2	
		ジフェニル	4		4		4		4		2	
		イマザリル	4		4		4		4		2	
	品質保持剤	プロピレングリコール	3		0		0		0		0	
	指定外添加物	アゾルビン	56		42		41		50		55	
		キノリンイエロー	56		42		41		50		55	
		パテントブルー	56		42		41		50		55	
		アミドブラック	56		42		41		50		55	
		オレンジⅡ	56		42		41		50		55	
		tert-ブチルヒドロキノン	14		8		5		7		4	
		サイクラミン酸	4		3		3		3		3	
	その他の添加物		0		0		0		0		0	
	添加物小計		1,298	0	974	1	944	0	1,152	0	1,256	0
	残留農薬			4,864	0	4,053	0	3,310	0	2,070	0	1,912
成分規格等	生あん、豆類	シアン化合物	1		0		1		0		1	
		器具重金属	2		2		0		2		2	
	器具	過マンガン酸カリウム消費量	1		1		0		1		1	
		蒸発残留物	8		8		0		8		8	
		材質試験(Cd,Pb)	4		4		0		4		4	
		モノマー	2		2		0		2		2	
	清涼飲料水	混濁、沈殿物	14		21		21		21		21	
		かび毒	4		4		0		5		7	
		元素類(As、Cd等)	28		30		30		32		32	
		陰イオン性化合物	18		27		24		21		24	
		VOC、ホルムアルデヒド等	28		42		45		12		57	
	牛乳・加工乳・乳飲料、アイスクリーム類	比重	5		4		4		4		4	
		酸度	5		4		4		4		4	
		無脂乳固形分	5		4		4		4		4	
		乳脂肪分	7		6		6		6		8	
		乳固形分	2		2		4		2		4	
	細菌・ウイルス検査	一般細菌数	20		14		18		15		13	
		大腸菌群	25		17		25		20		19	
		E.coli(最確数を含む)	8		5		6		9		8	
		黄色ブドウ球菌	4		2		4		3		6	
		サルモネラ属菌	6		4		4		3		6	
		クロストリジウム属菌	0		4		0		1		3	
		大腸菌O157	0		0		0		0		0	
		腸炎ビブリオ(最確数を含む)	14		12		10		11		13	
		リステリア	4		3		3		3		3	
		ウイルス	0		0		0		0		0	
	その他の細菌	0		2		0		0		0		
	特定原材料	乳、卵、小麦、落花生、そば	34		28		30		28		30	
	遺伝子組換え	ダイズ RRS,LLS,RRS2	2		0		0		2		2	
放射性物質	Cs-134,137	0		0		0		0		0		
成分規格等小計			251	0	252	0	243	0	223	0	286	0
合計			6,413	0	5,279	1	4,497	0	3,445	0	3,454	0

(2) 放射性物質検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故による食品への放射能汚染の不安解消を図るため、平成 24 年 10 月から食品の放射性物質検査を実施している。市内の流通食品及び保育所・学校の給食用食材等について、NaI シンチレーションスペクトロメーターを用いた「放射性セシウムスクリーニング法」(厚生労働省事務連絡)により、放射性セシウム(Cs-137 及びCs-134)の検査を年間計画に基づき行ってきたが、令和 4 年度で終了とした。

年度別放射性物質検査検体数

年度 区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	検体数	99	52	63	59	※令和4年度 で終了
	学校給食	0	0	11	11	
	保育所給食	99	52	52	48	
	収去	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	

(3) 衛生関係検査

ア プール水水質検査

市内の遊泳用プール(学校施設のものを除く)について、「遊泳用プールの衛生基準について」(平成 19 年 5 月 28 日付け厚生労働省通知)に基づき水質検査を行っている。令和 5 年度は 3 施設 7 検体の検査を行い、いずれも衛生基準を満たしていた。

イ 家庭用品検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、市内の店舗等で試買した繊維製品のホルムアルデヒドの検査を行っている。令和 5 年度は 21 検体の検査を行い、いずれも基準を満たしていた。

年度別衛生関係検査数

年度 区分		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
		検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
衛生 関係	プール水水質検査	60	540	18	162	14	125	7	56	7	56
	家庭用品検査	21	21	21	21	0	0	21	21	21	21
合 計		81	561	39	183	14	125	28	77	28	77

Ⅲ その他

1 精度管理調査実施状況

(1) 食品検査関係

ア 外部精度管理

(一財)食品薬品安全センター秦野研究所が実施した食品衛生外部精度管理調査及び食品表示に関する外部精度管理調査に参加した。

(ア) 食品衛生外部精度管理調査

理化学調査項目

- ・食品添加物検査Ⅰ(着色料の定性)
- ・食品添加物検査Ⅱ(保存料(ソルビン酸)の定量)
- ・重金属検査(カドミウムの定量)

微生物学調査項目

- ・一般細菌数測定検査
- ・黄色ブドウ球菌検査

(イ) 調査結果

概ね良好であった。

イ 内部精度管理

長野市保健所食品衛生検査業務管理要領で規定している職員による内部精度管理を受検した(令和6年3月)

ウ 食品衛生検査業務管理の組織

(ア) 食品衛生検査業務管理の組織は「長野市保健所食品衛生検査業務管理要領」の「3 組織」で、以下のとおり規定している。

3 組織

長野市保健所長は、職員の中から検査部門責任者並びに理化学的検査及び微生物学的検査の区分ごとに、検査区分責任者を選任し、信頼性確保部門には、信頼性確保部門責任者を置くことができる。その責任者等は次のとおりとする。

(1) 検査部門責任者

環境衛生試験所長

(2) 検査区分責任者

ア 理化学的検査区分責任者

環境衛生試験所 所長補佐または係長(臨床検査担当)

イ 微生物学的検査区分責任者

環境衛生試験所 所長補佐または係長(環境検査担当)

(3) 信頼性確保部門責任者

ア 信頼性確保部門責任者

保健所総務課長

イ 信頼性確保部門責任者の指定した職員

食品生活衛生課 薬務・生活衛生担当職員

(イ) 検査担当者

a 理化学的検査担当者

食品検査担当 3名

b 微生物学的検査担当者

臨床検査担当 5名

エ 令和5年度地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック模擬訓練

地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部に登録されている機関を対象として実施された模擬訓練に参加した。

(ア) 実施項目

健康食品等に係る有症苦情を想定した模擬訓練（理化学検査）

健康食品中のフェノールフタレイン

(イ) 結果

良好であった。

(2) 環境検査関係

ア 令和5年度精度管理調査事業

長野県環境科学技術者協議会が実施した精度管理調査に参加した。

(ア) 理化学検査調査項目

・医療用医薬品 市販品(粘膜防御性 胃炎・胃潰瘍資料剤:ガスロンN錠2mg)

(イ) 調査結果

良好であった。

イ 令和5年度環境測定分析統一精度管理調査

環境省主催((一財)日本環境衛生センターが実施)の精度管理調査に参加した。

(ア) 調査項目

・模擬水質試料(COD、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、砒素)

・模擬水質試料(ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、ベンゼン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,4-ジオキサン)

(イ) 調査結果

概ね良好であった。

(3) 臨床検査関係

ア 令和5年度長野県臨床検査精度管理調査

長野県医師会及び長野県臨床衛生検査技師会主催の臨床検査精度管理調査に参加した。

(ア) 調査項目

・血清部門(梅毒 TP 抗体、HBs抗原、HCV 抗体)

・細菌部門(細菌同定、フォトサーベイ)

(イ) 調査結果

良好であった。

イ 令和5年度外部精度管理事業課題2(麻しん・風しんの核酸検出検査)

厚生労働省主催の調査に参加した。

(ア) 調査項目

パネル検体(5検体)

(イ) 調査結果

良好であった。

ウ レジオネラ属菌検査の精度管理の調査研究への参加

令和5年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」の一環で、レジオネラ属菌培養検査の精度管理に参加した。

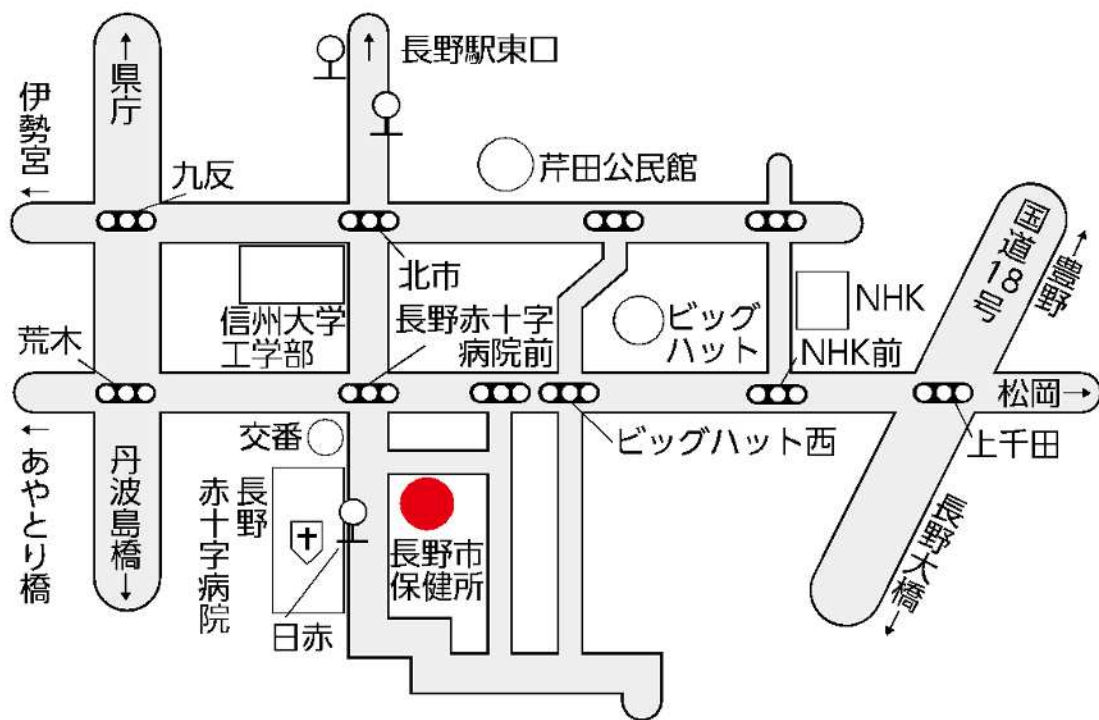
(ア) 調査項目
レジオネラ属菌の菌数測定

(イ) 調査結果
良好であった。

エ 厚生労働省事業「新型コロナウイルス感染症のPCR 検査等にかかる精度管理調査」
厚生労働省主催の調査に参加した。

(ア) 調査項目
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)RNA 抽出及び検出(6検体)

(イ) 調査結果
良好であった。



令和 5 年度環境衛生試験所年報

発行 令和 7 年 1 月

編集 長野市保健所環境衛生試験所

〒380-0928

長野市若里六丁目 6 番 1 号

TEL026-226-9980

FAX026-226-9983

E-mail h-kankyoeisei@city.nagano.lg.jp
